

令和6年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 小倉中央 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、6年生を対象として、令和6年4月18日（木）に、「教科（国語、算数）に関する調査」、文部科学省が指定した日（4月10日から4月30日の間）に「児童質問調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

(1) 教科に関する調査（国語、算数）

教科に関する調査（国語、算数）

- ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

(2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査

- 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

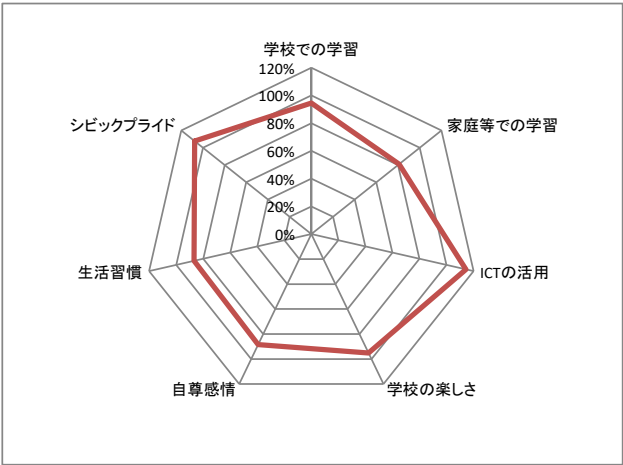
(1) 全国・本市の学力調査（国語、算数）の結果

本年度の結果	国語		算数	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	9.3	66	9.6	60
全国	9.5	68	10.1	63

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	「知識及び技能」に関する内容、「思考力・判断力・表現力等」に関する内容ともに全国平均正答率を下回っていた。「言葉の特徴や使い方に関する事項」や「我が国の言語文化に関する事項」において課題が見られたが、「情報の扱い方に関する事項」では、全国平均正答率を上回っていた。	全国平均正答率との比較
	よくできた問題	「人物像を具体的に想像する問題」、「話し言葉と書き言葉の違いに関する問題」、「情報と情報との関係づけの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方に関する問題」等はよくできている。	下回っている
	努力が必要な問題	「学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う問題」「資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫する問題」「登場人物の相互関係や心情などについて描写を基に捉える問題」等は正答率が低く、改善の努力が必要である。	
算数	全体的な傾向や特徴など	「数と計算」「図形」「変化と関係」「データの活用」の4つの領域において全国平均正答率を下回っていた。どの領域にも課題は見られるのだが、中でも、「速さと道のり」と時間に関する問題や、「様々なグラフから数値を読み取り活用する問題」に多くの課題が見られる。	全国平均正答率との比較
	よくできた問題	「計算に関して成り立つ性質を活用して計算の仕方を考察し、求め方と答えを式や言葉を用いて記述する問題」「除数が小数である場合の除法の計算をする問題」「直方体の見取図について理解し作図する問題」等は比較的良好にできている。	下回っている
	努力が必要な問題	「道のりと時間の関係について考察する問題」「円グラフの特徴を理解し、割合を読み取る問題」「表から必要な数値を読み取って式に表し、基準値を超えるかどうかを判断する問題」「球の直径の長ささと立方体の一辺の長さとの関係の捉え、立方体の体積の求め方を式に表す問題」等は正答率が低く、改善の努力が必要である。	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問調査結果の概要



質問調査の結果分析
○学校での学習については、各教科などで学んだことを生かして自分の考えをまとめる活動や自分の課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表する活動などには積極的に取り組んでいる傾向がみられる。しかし、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表することや、学習して分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげる力が十分に身につけていない面が見られる。
○家庭での学習習慣については、平日・土日ともに学習時間が全国平均を下回っており、今後も継続的な啓発と家庭の協力が必要であると考えます。
○ICTの活用については、授業中でも学校の授業時間以外でもICT機器の活用頻度は共に全国平均を上回っており、日頃からタブレット端末をはじめとするICT機器を授業の中で積極的に活用している成果が表れてきていると考えます。
○自尊感情については、自分にはよいところがあると感じている割合が低い傾向にある。今後、学校や家庭、地域も含めて、児童のがんばりや成長が認められる機会を増やしていくことが必要だと考える。
○生活習慣については、朝食、就寝時刻、起床時刻ともに課題が見られる。今後は学級指導や保健指導等の学校での指導も含め、家庭への啓発を行っていく必要があると考える。
○地域や社会をよくするために何かしたいという気持ちは、全国平均を大きく上回っており、郷土を愛するシビックプライドの高さが伺える。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

○各学級においては、学習規律を徹底させ、落ち着いた雰囲気の中で学習が進められるようにする。また、授業においては「めあて・まとめ・振り返り」を確実に行う。特に基礎的・基本的な学力の定着のための補充の時間や、次の学習に生かすことのできるような「振り返り」に力を入れて取り組む。また、話し合い活動や、自分の考えを書いたり、発表したりする活動の充実を図る。
○5校時の開始前の「コグトレタイム」では、各学年の児童の実態に即したコグトレの問題に取り組む。
○各学年の児童の発達段階を考えながらタブレット端末を活用した授業づくりや、ICT機器を有効に活用した活動に積極的に取り組む。

② 家庭生活習慣等に関する取組

○毎日学年に応じた内容や分量の宿題を出すとともに、家庭学習（自主学習）の時間や取り組み方について指導していく。また、保護者には懇談会、学校だよりや学年だより等を通して家庭学習の大切さについて啓発していく。
○PTAとも連携しながら、携帯電話やスマートフォンの使い方や使用時間、ゲームをしたり動画を視聴したりする時間や時間帯、使用する際のルールづくり等について積極的に啓発していく。
○学校では、規則正しい生活習慣の大切さを学級指導や保健指導を通して児童に指導していくとともに、各家庭には「早寝早起き朝ごはん」の徹底について協力を呼び掛ける。